

わたしの ニュース

ITAMISHI KONCHUKAN NEWS

第40号 2023/2

特集 昆陽池公園で野鳥を観察してみよう



特集

こやいけこうえん 昆陽池公園で野鳥

昆虫館のある昆陽池公園は都市公園でありながら、四季折々に様々な野鳥をめる観察ポイントをいくつか紹介します。

関西屈指の探鳥地

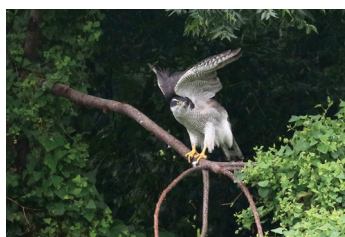
関西屈指の、渡り鳥の中継地である昆陽池公園では、年間130種以上(2022年は138種)の野鳥が観察されています。水鳥の憩う2つのため池と、周囲を取り囲む緑地からなり、昆陽池の中ほどには、日本列島を形どった野鳥の島(人工の島)が設けられています。西側の公園入口付近には野鳥情報ボードが設置され、昆陽池公園野鳥観察グループ「チームK」による観察記録が毎日更新されています。秋から冬にかけて昆陽池では、カモ類をはじめ、カワウ、サギ類、カイツブリ、オオバン、ユリカモメなどの水鳥が観察されています。野鳥の島はカワウの営巣地となっており、冬の間はオオタカが現れ、カラスやカモなどを狩るシーンが数多く目撃

されます。周辺のヨシ原にはオオジュリン、ウグイス、ジョウビタキやアオジ、モズなどが観察されており、鳥の好む樹木が多いふるさと小径には、アトリの群れやシジュウカラ、メジロ、エナガ、コゲラの混群などが観察されます。



昆虫館とコウノトリ(2022年2月)

昆陽池公園野鳥観察ポイントマップ



野鳥の島(オオタカ)



ふるさと小径(小鳥の観察におすすめ)



オニバス池(オオタカの狩りのシーンはここから観察するのがおすすめ)



貯水池(カモ類、サギ類、カイツブリ、ユリカモメなどが観察できる)



昆陽池公園野鳥情報ボード(最新の情報をチェック!)



野鳥観察橋(近くで水鳥が観察できる)



草地広場(セキレイやツグミの仲間、タカの渡りが観察できる)

かんさつ を観察してみよう

観察することが出来ます。これから野鳥観察をはじめの方にも必見！誰もが楽し

冬鳥からはじめる野鳥観察

秋から冬にかけて昆陽池公園に渡ってくるカモは年によって違いはありますが、カルガモ、マガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、キンクロハジロ、ハシビロガモの6種は数も多く、毎年訪れる常連さんです。

エサの食べ方も種類によって様々なのでじっくり観察してみてください。水面近くで水草などを採るオナガガモは逆立ちして脚をパタパタさせるばかりで水に潜れません。一方、キンクロハジロは水に潜って貝類や小さな甲殻類などを食べているため、観察し

ていると急に姿が見えなくなります。また、冬から初春にかけてオスは立派な繁殖羽になります。メスとの違いが明らかになるので、カモの種類も識別しやすくなります。



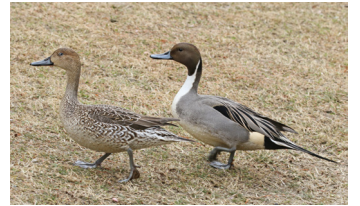
カルガモ (左オス、右メス)



マガモ (左メス、右オス)



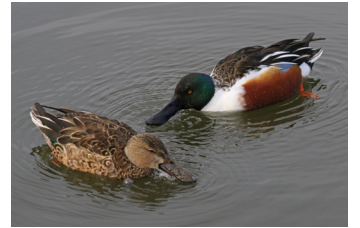
ヒドリガモ (左メス、右オス)



オナガガモ (左メス、右オス)



キンクロハジロ (左メス、右オス)



ハシビロガモ (左メス、右オス)

野鳥は何を食べている？

小型の鳥の中には木の実を食べるものもいれば、小さな昆虫や魚を食べるものもいます。モズや猛禽類の一部には、両生類、爬虫類、小型の鳥などを食べるものがあります。さらに、中型の鳥を食べる大型の猛禽類が生息するといったように、昆陽池公園内での食物連鎖ができています。

春は小鳥たちの子育ての様子が観察されます。小鳥のヒナが食べるエサは主に昆虫です。シジュウカラやエナガの親鳥が、昆虫をつかまえてせっせと巣に運ぶ様子が目撃されます。また、昆陽池公園にはカワウやサギの仲間が一年中見られることから、水辺の鳥が好む魚やエビなどの資源が豊富にあると考えられます。



カワセミ (オス親(左)に小魚のエサをねだる巣立ったばかりのヒナたち)



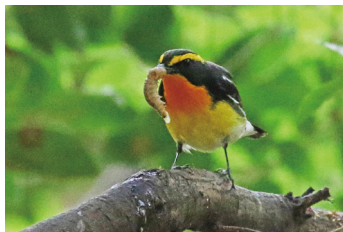
モズ (オス；ニホンカナヘビを「はやにえ」に?!)



オオタカ (コサギを水没させて捕える)



センダイムシクイ (ガの幼虫を捕える)



キビタキ (オス；ガの幼虫を捕える)



サンコウチョウ (オス；マエアカスカシノメイガを捕える)



ツバメ (ヒナにコシアキトンボを与える)

草生地広場からタカの渡りを観察

9月中旬から10月中旬にかけタカの渡りが観察されます。サシバやハチクマなどの猛禽類は、この時期にはるか東南アジアまで渡り、冬越しをします。その渡りのルートが昆陽池公園上空を通

過しており、草生地広場からでも観察できることがわかりました。運が良ければ、上昇気流に乗りながら旋回する姿も観察できます。



サシバ 31羽が上昇気流に乗って旋回する「タカ柱」と呼ばれる様子(2019年9月27日14時8分撮影)



サシバ(全長49cm 翼開長103~115cm)



サシバ(暗色型)



ハチクマ(全長55cm 翼開長121~135cm)



ノスリ(全長55cm 翼開長122~137cm)

昆陽池公園をにぎわせた野鳥

公園内で観察を続けていると、思わぬ出会いがあるものです。図鑑でしか見たことのない、憧れの野鳥を観察できることもあり、感動もひとしおです。昆陽池公園には渡り鳥が立ち寄りたくなる

魅力があるのではないのでしょうか。2022年から2023年1月、昆陽池公園をにぎわせた野鳥たちを紹介します。



コウノトリ(2022年12月30日撮影;2022年2月に初めて降り立ち44日間滞在した個体が再び飛来)



ヘラサギ(2022年2月24日~3月29日の34日間滞在した。1973年12月16日以来49年ぶり2例目)



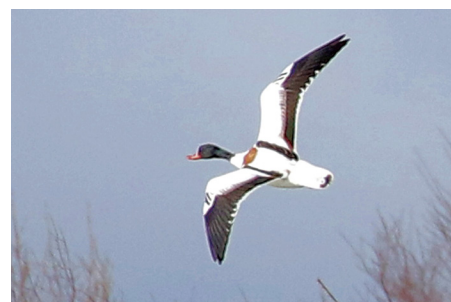
トモエガモ(2022年12月2日撮影;毎年2~3回の記録がある)



ミゾゴイ(2022年4月13日~5月8日の26日間滞在した。2019年4月、2020年5月以来2年ぶり3例目)



ギンムクドリ(2022年4月18日撮影;2016年4月以来6年ぶり2例目)



ツクシガモ(2023年1月16日撮影;2006年、2017年、2021年いずれも1月の記録以来2年ぶり4例目)

※過去の観察例はチームKの未発表記録を含む

観察会に参加しよう



タカの渡り観察会の様子

野鳥を観察する上で、もっとも大切なことはマナーを守ることです。野鳥との距離感も大切ですが、公園を利用する人とのトラブルをおきないように配慮が必要です。当館では年に数回「野鳥観察会」を開催

しています。野鳥の観察の仕方や、双眼鏡の使い方はもちろん、ルールやマナーをわかりやすく解説します。双眼鏡の貸し出しもしていますので、これから野鳥観察を始めたい方にもおすすめです。観察会の情報は昆虫館HP「もよおしあんない」や「広報伊丹」などでご案内します。(前畑真実) 撮影:尾崎由紀(チームK)
※参考文献:高野伸二、『フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版』.日本野鳥の会『新版 伊丹の鳥』.伊丹市立総合教育センター

むしムシ虫眼鏡

Vol.26 ダイコクコガネ

ダイコクコガネは動物のフンを食べてくらす、フン虫と呼ばれるコガネムシの仲間です。親は動物のフンを地中で球状に丸め、そのフン球を食べて幼虫が育ちます。本種はフン虫の中でも日本最大種で、体が大きいためウシやウマのような大型ほ乳類のフンを好みます。このため、ヒトが営む牧場で繁殖するようになりました。しかし近年、本種は各地の牧場で急速に姿を消してしまいました。理由としては、人工飼料を与えられた家畜のフンは水分が多いためにフン球をうまく作れないこと、またダニ駆除剤（イベルメクチンやエプリノメクチンなど）の家畜への投与により、そのフンを食べた本種の幼虫が死滅してしまうといったことが挙げられます。

本種の形態は優美な曲線で構成されていますが、アクセントとして複数の突起（ツノ）も備えているため、その造形美とカッコよさについて見入ってしまいます。（田中良尚）



<ダイコクコガネ>

学名: *Copris ochus*

分類: コウチュウ目コガネムシ科

体長: 20-30 mm

亜熱帯の温室から

Vol.26 タイワンウオクサギ

チョウ温室には熱帯・亜熱帯原産の植物がおよそ200種、3,000株以上植栽されています。お客様の目を楽しませる花、チョウたちが吸蜜に訪れる花、変わった形や色をした葉っぱ、実をつける植物など様々です。この夏、タイワンウオクサギというシソ科（かつてはクマツヅラ科）の樹木に花が咲きました。温室に導入してから5年以上経って初めてのことです。

この樹木は沖縄本島や八重山諸島では海岸などの林に生育し、丸みを帯びた艶のある葉と枝葉を揉んだ時の独特の香りが特徴です。開花するとたくさんのチョウが吸蜜に集まることで知られています。小さな白い花が集まって咲く花序は、見た目は地味ですがツمامラサキマダラやスジグロカバマダラ、オオゴマダラなどのチョウが集まり華やかになります。花序はテーブルのように平らでチョウたちも着地がしやすく、口吻をせわしなく動かしては効率よく小さな花ひとつひとつから蜜を吸っているようです。夏前に咲き出してから次々と花序があがり、1月末現在もまだチョウが集まっています。いつまでチョウのレストランが見られ

るか楽しみながら観察しています。（野本康太）



テーブル状の花序に集まるチョウたち

<タイワンウオクサギ>

学名: *Premna serratifolia*

分類: シソ科

「さいきんの

3年ぶり、トライやるウィークを受入!

新型コロナウイルス感染症の拡大で2年間中止されていた、トライやるウィークが3年ぶりに実施されました。この事業は兵庫県下の中学2年生が、社会体験の一環で5日間にわたり地域の事業所で活動を行います(当館では4日間)。当館も伊丹市内8つの中学校から16名の生徒を受け入れました。

当館では昆虫の飼育だけでなく、館周辺の清掃、植物の植替え、イベントの補助、図書整理、展示昆虫の採集、ショップの商品作り、肥料やり、荷物運搬など様々な「仕事」を体験してもらいました。

活動する中の基本「あいさつと返事」の大切さを知り、仲間と相談しながら活動する生徒は、日を追うごとに生き生きと楽しそうでした。ここでの体験が彼らのこれからの進路や将来を考える刺激となり、記憶にのこってほしいです。(角正美雪)



交流スタッフの指導をうけながら、チョウの幼虫の飼育作業

「昆虫館はスゴイ! 2」が絶賛発売中

2021年に発売し好評だった第一弾に次ぐ第二弾が2022年夏に発売されました。今回は、「昆虫の魅力と楽しみ方」と「プロが自慢する飼育スゴ技」の2部構成とし、よりディープな昆虫の世界を紹介。全国昆虫施設連絡協議会に所属する全国22の昆虫館のスタッフが、昆虫へのこだわりについて熱く語っています。もちろん、当館スタッフも執筆しております。

全編オールカラーで、魅力的な昆虫の写真も豊富に掲載。昆虫好きがうなる今まで知らなかった『昆虫秘話』も満載です。まさ

に昆虫好きにはたまらない内容になっています。ぜひ手にとってみてくださいね。(西史夏)

「昆虫館はスゴイ! 2」
1,980円(税込み)
「昆虫館はスゴイ!」
1,760円(税込み)
出版社:

repicbook(リビックブック)



むしのうんこ展、はじまる

企画展「むしのうんこ展」が1月4日から開催されました。今回の展示では、約200種もの昆虫のフンを標本箱9箱で展示



むしのうんこ展ちらし

しています。うんこの形を8つのカテゴリー「ぼこぼこ・あなあき・ながしかく・ほそなが・まる・つぶつぶ・くねくね・みず(液体なので展示はできません)」に分けました。270種以上もの収蔵サンプルからどれを展示に出そうか、このうんこは「まる」か? 「つぶつぶ」か? など考えながら、準備をすすめる作業がつつぎ、12月後半はうんこだらけの日々。フンのなさりぬしの昆虫標本や写真とともに

展示する標本箱が完成したときはホッとしました。展示室では来館者のみなさまから「この虫はこんなうんこをするやね〜」との声がか聞こえます。映像や観察コーナー、フン虫やフンに関する昆虫食や「むしのうんこ染め」まで盛りだくさん。

生きている証のうんこをとおして、昆虫のくらし、生態、多様性、自然とのかかわりを楽しく学べます。「むしのうんこって、おもしろいね」を感じてもらえるとうれしいです。(角正美雪)



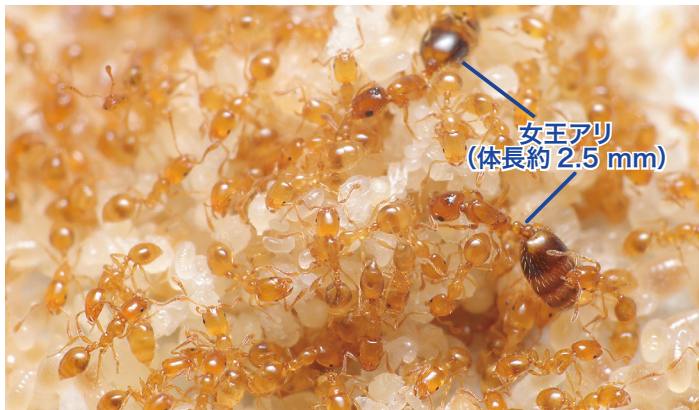
上: 展示室の入口、下: 昆虫のフン標本展示

飼育室から

無限にうじゃうじゃするキイロヒメアリ

キイロヒメアリは働きアリの体長 1.5 mm ほどのとても小さなアリです。森の朽ち木の中などにひっそりと暮らしていて、野外ではあまり目立つことはありません。

しかし、飼育下におけるキイロヒメアリは、「無限にうじゃうじゃと増え続ける」という驚くべき姿を見せます。本種は1つの巣に女王アリが多数いて、その女王アリたちはオスアリと交尾することなく働きアリや新女王ア리를産むことができる、という特殊な生態的特徴をもちます。一般的な生態のアリは、巣の中で生まれた



飼育ケースの中のキイロヒメアリ

オスアリと新女王アリがいったん野外に出て、結婚飛行を行って交尾をした後に新女王が新しい巣を作ります。この結婚飛行を飼育下で成功さ

せることは難しく、エサとして与えたミールワーム(チャイロコメノゴミムシダマシの幼虫)をかじるキイロヒメアリ多くのアリは女王アリの寿命が尽きてしまうと飼育は続けられなくなってしまいます。キイロヒメアリは交尾をする必要がないので、好適な環境で飼育を続けると、働きアリと女王アリが永遠に増え続けます。

キイロヒメアリはプチ展示 アリ(2023年2月1日~4月4日)でも飼育ケースを展示しています。小さいけれども、うじゃうじゃと生活する様子は見ごたえがあります。ぜひご覧ください。

(長島聖大)

オオジョロウグモが土を掘って産卵!?

2022年秋の企画展「クモの網これくしょん〜すざいぞクモの網と狩りの技〜」にてオオジョロウグモの生体を展示しました。オオジョロウグモは九州、南西諸島などに生息する日本最大の造網性のクモです。身近な普通種のジョロウグモと比べるとメスの体



ヒメクダマキモドキを捕食中

頭胸部を使い手前から奥に土を押しやり掘っている

長は約2~3倍、網の大きさは長径 1.5m を超えます。普段は昆虫を捕らえています。鳥やコウモリが網にかかり、食べることもあるそうです。ある時、展示中のオオジョロウグモが土を敷いているケース底面に下り、頭胸部をブルドーザーのように使って土を掘っていました。これはいったい何が始まるのだろうか?

次の日に確認すると小さな土の山ができていて、その下にうっすらオレンジ色の綿のような糸に守られた卵(卵囊)が埋められていました。空中に網を張るクモがまさか地表に降りて土を掘って産卵するなんて! 驚きの習性をみることができました。

(野本康太)



卵のう(粒々が卵)の中のような

ITAMI ECHO にコラムの掲載をはじめました



ITAMI ECHO (いたみえこ) は『「楽しい」「あたらしい」をECHOする(こだまする)伊丹のメディアプロジェクト』と銘打って「伊丹」をキーワードに情報を発信しているウェブサイトです。このサイトに2022年の6月から月1回、スタッフが交代でコラムを書かせていただくことになりました。イベントの紹介や昆虫の話はもちろん、スタッフの持ちネタや昆虫館のウラ話?なども発信していきますので、どうぞご覧ください。現在は毎月抽選でオリジナルグッズの当たるアンケートも実施しています。(坂本昇)



ITAMI ECHO コラムページのQRコード

ミュージアムショップ新商品!

15年以上ぶりの新作商品が昆虫シール、しかもすべて学芸員が撮影した写真です。また昆虫定規やえんぴつもデザインをリニューアルしています。すこしずつデザインが変わっていますので、注目してくださいね。

また今話題の昆虫食も充実。昔ながらの佃煮のほかにもスナック菓子やあられ、缶詰や飲料、レトルト食品やお料理に使えるコオロギ粉末まで取りそろえています。(角正美雪)

伊丹市近昆虫館『2館合同 魅惑のいもむし・けむし展』令和4年度矢島賞奨励賞受賞!

全国昆虫施設連絡協議会の加盟館が、前年度に行われた優れた事業を選ぶ令和4年度矢島賞奨励賞に、「伊丹市昆虫館×箕面公園昆虫館 2館合同魅惑のいもむしけむし展(伊丹市昆虫館:前畑真実)」が選ばれました!

嫌われ者のイメージが強い「いもむし・けむし」を取り上げ、形態や生態を伝えてその魅力を知ってもらい、それを通じて昆虫全体の多様性や進化の不思議などに興味を持ってもらうことを期待して企画しました。また、コロナ禍でイベントが中止になり、緊急事態宣言下で遠方からの来館者も見込まれない中、安心して楽しんでもらえるネット配信を行った点なども評価いただきました。(西史夏)



前畑真実(学芸スタッフ)



オリジナル昆虫シール(各200円)



昆虫食いろいろあります

もよおしあんない

*新型コロナウイルス感染症対策のため、予定を急ぎ変更する可能性があります

2月

- 5(日) 生物多様性講演会
- 12(日) こやいけ野鳥観察会 要予約
- 18(土) 学芸スタッフトークショー
角正学芸員の
「むしのうんこっておもしろい」

3月

- 11(土) むしのうんこ染め体験講座 要予約
- 18(土) 学芸スタッフトークショー
前畑学芸スタッフの
「一年中いもむし・けむし」
- 25(土) こやいけ昆虫観察会 要予約

企画展

1/4 ~ 5/8 むしのうんこ展

プチ展示

2/1 ~ 4/3 アリ
2/8 ~ 2/27 友の会活動紹介

行事の申込方法

- 伊丹市内に在住の方
「広報伊丹」をごらんください。
*広報伊丹へは実施日の約1ヶ月前に掲載します。
電話での問い合わせには掲載以降にご案内します。
*広報伊丹は伊丹市ウェブサイトでもご覧になれます。
- 伊丹市外に在住の方
電話でお問い合わせください。
*講習会・観察会実施日の約1ヶ月~2週間前までに
お問い合わせください。

申し込むには...

- FAX、Eメール(PDF添付を含むPCメールとのやりとりができるアドレス)、および往復はがきで受け付けします。
- ①行事の名前、②申込者全員(同伴含む)の氏名(ふりがな)、③年齢(学年)、④住所、電話番号を記入し、受付期間内にお送りください。申込多数の場合は抽選になります。
- 小学生以下は保護者同伴での申し込みをお願いします
- FAXの宛先番号 072-785-2306
- Eメールアドレス itakon@itakon.com
(メールを送って3日以内に受付の返信がない場合は、お手数ですが再度ご連絡ください)
- 往復はがきの宛先住所
〒664-0015 伊丹市昆陽池 3-1 伊丹市昆虫館

編集スタッフより

チョウ温室の出口前、上を見上げるとヒスイカズラの花芽がつきはじめました。翡翠にも負けないくらい美しい花が今年も見られそうです。(のもと)

企画展の準備でむしのうんこに追われた、年末年始でした。いい運がやってきそうです!(かくまさ)